

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

**達成度(評価)**  
**A:**十分達成できている  
**B:**おおむね達成できている  
**C:**やや不十分である  
**D:**不十分である

学校名	武雄市立川登中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>○評価項目の12項目中9項目について、十分達成することができた。「おおむね達成」の状況である3項目については、以下のようにして改善を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめの早期発見、早期対応体制の充実」については、道徳をはじめ朝の会・帰りの会を中心とした教育活動全体において、心の教育の充実を行っていくとともに、被害者・加害者の背景を理解しながら、生徒の心に寄り添った指導を行う。また「チーム学校」としての組織力を高め、早期発見・早期対応に努める。</li> <li>・「部活動の推進」については、地域部活動への移行を視野に入れ、練習における効率的かつ質の向上を図りながら、生徒の主体性を育む。</li> </ul> <p>その他、今後より力点を置いて指導すべき内容として、以下のような取り組みを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・判断力・表現力を高めるために、協働学習に取り組ませるとともに、校内研修等で効果的な指導方法について検証を行いながら共通理解・共通実践する。</li> </ul>
---------------	--

2 学校教育目標	自立の精神に満ちた、豊かな人間力の育成
----------	---------------------

3 本年度の重点目標	(1) 豊かな人間性と社会性の育成 (2) 確かな学びの充実 (3) 主体的な活動の推進 (4) 地域との共生と創造性の育成
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目	重点取組			最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○生徒にとって魅力的だと思えるようにめあての提示と教材を工夫し、学ぶ意欲が高まったと回答する生徒の割合を70%以上にする。	○「めあて」の板書については、生徒たちが理解できる具体的な目標にする。 教材については課題の難易度を意識する。	○「めあて」の板書については、生徒たちが理解できる具体的な目標にする。 教材については課題の難易度を意識する。	A	・生徒による授業評価アンケート(1月)「生徒の学習意欲を高めるためにめあての提示と教材を工夫している」の質問に、肯定的な回答をする生徒の割合は、96%であった。一人一回の公開授業を実施できた。今後はさらなる授業の充実を求め、授業の在り方について考える機会を設けていきたい。	A	・授業参観をして、生徒の姿から教師の授業実践の充実を感じる。 ・理解できる子、理解が困難な子、それぞれに寄り添って教えていただければ嬉しい。	・学力向上対策 コーディネーター ・研究主任
	○思考力・判断力・表現力の深まりを目指す授業の実践	○「対話学習」を取り入れたことで、自分の考えが深まったり広がったりした」に、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。	○「対話学習」については、話し合いの目的や進め方、時間などを示して、主体的に学び合わせる。	○「対話学習」については、話し合いの目的や進め方、時間などを示して、主体的に学び合わせる。	A	・「対話学習」を取り入れることで、自分の考えを深めたり広めたりできていた」の質問に、肯定的な回答をする生徒の割合は、85%であった。継続的なコミュニケーション活動(川中タイム)を行うことで、生徒たちの対話への意識が向上している。	A	・人前で自分の意見を堂々と伝える生徒の育成。これがベースとなり、タブレット、ICT機器の有効活用につながると感じる。 ・小中連携をより深めた活動を期待したい。	・学力向上対策 コーディネーター ・研究主任
	○家庭と連携した学習環境づくり	○平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒の割合を80%にする。	○学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を、学期の当初に1回ずつ設定する。 ○家庭学習において課題の出し方を工夫する。	○学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する機会を、学期の当初に1回ずつ設定する。 ○家庭学習において課題の出し方を工夫する。	B	・平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒の割合が70%であった。自学ノートに関する、2つの取り組み(①モデルとなる自学ノートの紹介、②小学校との取組の連携)の実施できた。これからも自学ノートの質を高める指導と授業と連動した課題(一人でできることは家で)を出し、家庭学習の定着と充実を図りたい。	B	・アンケート結果からも、学習時間について各家庭の状況の違いがみられる。 ・家庭学習の時間が短い家庭が気になる。何か対策が必要でないか。 ・家庭の理解協力が必要。	・学力向上対策 コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全学級「道徳」の授業を保護者等へ公開する。 ○特別の教科「道徳」の指導法に係る研修会を年1回以上実施する。	○道徳の授業年間35時間しっかりと教師が取り組む。 ○講師招聘による「考え・議論する道徳」に関わる職員研修会を行う。	○道徳の授業年間35時間しっかりと教師が取り組む。 ○講師招聘による「考え・議論する道徳」に関わる職員研修会を行う。	A	・「道徳の授業で自分の考え方を深めたり、自分とは違う思いや考え方に触れたりすることができた」の質問に肯定的な回答した生徒は9割を超えた。学年ごとに工夫した授業づくりやその後の指導ができていたので、これからも継続し、充実を図りたい。	A	・学校、家庭、地域が一体となって「心の教育」に尽くしていきたいと感じる。 ・田舎の学校(地域)特有の人間関係が子どもたちにも繋がっている。	・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていたと回答した教員の割合を80%以上にする。	○早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子について、こまめに情報交換を行い、共通理解する会議も月に1回設ける。 ○いじめの対応についての研修会を年間1回以上行う。	○早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子について、こまめに情報交換を行い、共通理解する会議も月に1回設ける。 ○いじめの対応についての研修会を年間1回以上行う。	A	・いじめ防止等について、年間を通して学年や管理職と連携を図りながら対応ができた。心のとびらなどのアンケートを使って未然防止や早期発見に繋げることができた。 ・いじめ防止対策委員会を毎月開き、共通理解を図った。	A	・教師集団のまとまりがみられる。定期的な調査(アンケート)で実態の把握と共有を続けて欲しい。 ・対応ができていと思う。結果を怠りすぎず、時間をかけて親子でも、話し合いをして欲しいと思う。	・生徒指導主事
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「先生はあなたのよいところを認めてくれてると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。 ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上にする。	○1年生は職業調べや職場見学などを通して、2年生は職場体験などを通じて、3年生は全校のリーダー的行事、立憲式などを通して、将来の夢や目標について考え、深める機会をもたせ、 ○1月に、全学年の生徒に、今年の抱負や目標を決めさせ、夢を実現させるためのほどのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見直しをもたせる。	○1年生は職業調べや職場見学などを通して、2年生は職場体験などを通じて、3年生は全校のリーダー的行事、立憲式などを通して、将来の夢や目標について考え、深める機会をもたせ、 ○1月に、全学年の生徒に、今年の抱負や目標を決めさせ、夢を実現させるためのほどのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の見直しをもたせる。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答をした生徒は80.1%で、後期も設定値を上回った。保護者も89.7%が肯定的な回答であった。学活や道徳で将来の職業や進路学習をしたり、高橋義希(元サガン鳥栖選手)さんに講話してもらったことが今回の結果につながったと感じる。今後は教師の体験談なども語りながら、更に夢や目標をもたせたい。	A	・是非、この指導を進め、定着させてほしい。 ・大きな夢を持ち、それに向かって前進してほしい。 ・地域に「誇り」を持ってほしい。 ・夢はたくさんあっていい。アンテナを張り、色々な興味を持って欲しい。	・進路指導主事 各学年主任
	○部活動の推進	○「部活動が充実している」と答える生徒の割合95%以上にする。	○顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動を充実させる。 ○臨場による指導を増やし練習の質の向上を目指し、主体的に練習に取り組むよう指導を行う。	○顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動を充実させる。 ○臨場による指導を増やし練習の質の向上を目指し、主体的に練習に取り組むよう指導を行う。	B	・「部活動が充実している」「部活動が充実していた」について肯定的な回答をした生徒は全体で94.5%であった。 部活動を行う生徒が少なくなっているが、充実した部活動を目指すために、練習の工夫は常にしないといけない。	B	・生徒が減少しているなか、大変だと思う。 ・今後の変革に向け、大きな課題だと感じる。 ・生徒が希望する部活が出場できなくなる(団体競技など)などの対策が必要。	・体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	○定時退勤日、学校閉庁日、部活動休業日の設定をする。 ○これまで作成されたデータの有効活用を行う。 ○校務分掌の細分化および輪番制により負担を軽減する。	○定時退勤日、学校閉庁日、部活動休業日の設定をする。 ○これまで作成されたデータの有効活用を行う。 ○校務分掌の細分化および輪番制により負担を軽減する。	B	・校務の効率化について、80%の職員が肯定的に答えている。時間外勤務の月平均は約35時間であり、年度当初より短くなっている。行事や会議の精選は、引き続き行っていく必要がある。	B	・業務内容が多く、大変だと感じる。 ・地域行事への協力、参加いただきやすい。	・管理職
	○教職員の連携促進	○明るい職員室づくりを目指し、使命感と情熱にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	○朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、チームで協力して業務を遂行できるようにする。 ○時間外の時間を削減するため、会議や事務の効率化を図る。	○朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業務の進捗等の情報を共有し、チームで協力して業務を遂行できるようにする。 ○時間外の時間を削減するため、会議や事務の効率化を図る。	A	・職場環境について、全職員が肯定的に回答している。「話しやすい」「相談しやすい」「情報共有しやすい」「チャレンジする先生が多い」などの感想があげられている。先生方が積極的にコミュニケーションをとられる姿に感謝したい。	A	・職員室は明るい、相談しやすい、という雰囲気これからますます続けてもらいたい。それが、子どもたちへも好影響を与えようと思う。	・管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組			最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫	○タブレットPCやICT機器を使った学習時間を年間100回以上行う。	○タブレットPCを使った学習については、掃除終了後に全学級確実に行う。 ○電子黒板と生徒用タブレットPCを活用した授業研究会を実施すると共に、有効活用について研修を行う。	○タブレットPCを使った学習については、掃除終了後に全学級確実に行う。 ○電子黒板と生徒用タブレットPCを活用した授業研究会を実施すると共に、有効活用について研修を行う。	A	・本校教職員への「本校では、わかりやすい授業(指導)するためにICT機器(PC・タブレットPC・電子黒板)を積極的に使って指導している」という質問に「とても思う」「そう思う」という回答が100%という結果から、十分な取り組みができている。また、生成AIを活用した授業など最新技術も積極的に取り入れることができた。	A	・生成AIを積極的に取り入れ実践している姿は素晴らしい。この成果を、ぜひ全国に発信して欲しい。 ・生成AIの活用は、今後役立つ場面が増えてくると思う。	・情報教育推進教員
○地域と学校の協働による学校づくり	○地域と学校の相互の関わりを深める教育活動の推進(コミュニティ・スクール)	○地域人材を活用した授業や行事を年5回以上実施する。 ○情報公開を推進し、学校HPの更新回数を月に5回以上行う。	○学校運営協議会を開催し、地域人材を生かした教育実践ができるように、連絡調整を密に行う。 ○地域の講師を招聘し、地域の伝統文化の継承を行う。 ○学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供する。 ○学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。	○学校運営協議会を開催し、地域人材を生かした教育実践ができるように、連絡調整を密に行う。 ○地域の講師を招聘し、地域の伝統文化の継承を行う。 ○学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供する。 ○学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。	A	・「地域のつながり」について、生徒、保護者、教職員ともに、90%以上が肯定的に答えている。子供たちの地域行事、保護者の方のPTA行事への参加率も高く、川登中校区の良いところである。 ・篠宮体験では、地域の方2名に指導していただき、川登町の伝統芸能に触れることができた。	A	・地域との関わりを考慮して教育実践していただき有難く感じる。 ・普段ふれあえない年配の方との交流ができていると思う。 ・地域の皆さんとの交流を忘れず、町民体育会などの行事に参加して欲しい。	・教頭 ・教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>○評価項目の12項目中9項目について、十分達成することができた。「おおむね達成」の状況である3項目については、以下のようにして改善を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平日の家庭学習時間が1時間以上になる生徒の割合を80%にする。」については、現在の受動的な意識から能動的な意識へと成長させる必要がある。そのために、授業と連動した課題やより効果的な自主学習ノートの在り方など、生徒各自が家庭学習の質を高める方策を講じていく。</li> <li>・「部活動の推進」については、部活動の参加者が少なくなっているのが実情である。部活動の充実を目指すために、武雄市の方針に沿って地域部活動への移行を視野に入れ効果的な部活動運営の推進を図る。</li> <li>・「校務の効率化」については、時間外勤務の月平均は約35時間であり、年度当初より短くなっている。さらなる効率化を目指すために、行事や会議の精選等を引き続き模索していく必要がある。</li> </ul> <p>○今年度、新たに取り組んだ内容について、特に効果が出ている項目については、引き続き重点項目として取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「思考力・判断力・表現力の深まりを目指す授業の実践」について、今年度は「対話学習を取り入れること」を中心に取り組んだ。朝の会や帰りの会での「継続的なコミュニケーション活動(川中タイム)」を行うことで、生徒たちの意識の変容が見られ効果が出てきている。来年度も引き続き全職員の共通理解・共通実践のもと、思考力・判断力・表現力の向上に努める。</li> <li>・「ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める指導の工夫」については、肯定的な回答が多い。特に、生成AIを活用した授業など最新技術も積極的に導入することにより、業務改善、授業改善にも効果が出てきている。働き方改革や個別最適な学び、協働的な学びの充実のために、引き続き活用していく。</li> </ul>
----------------	---